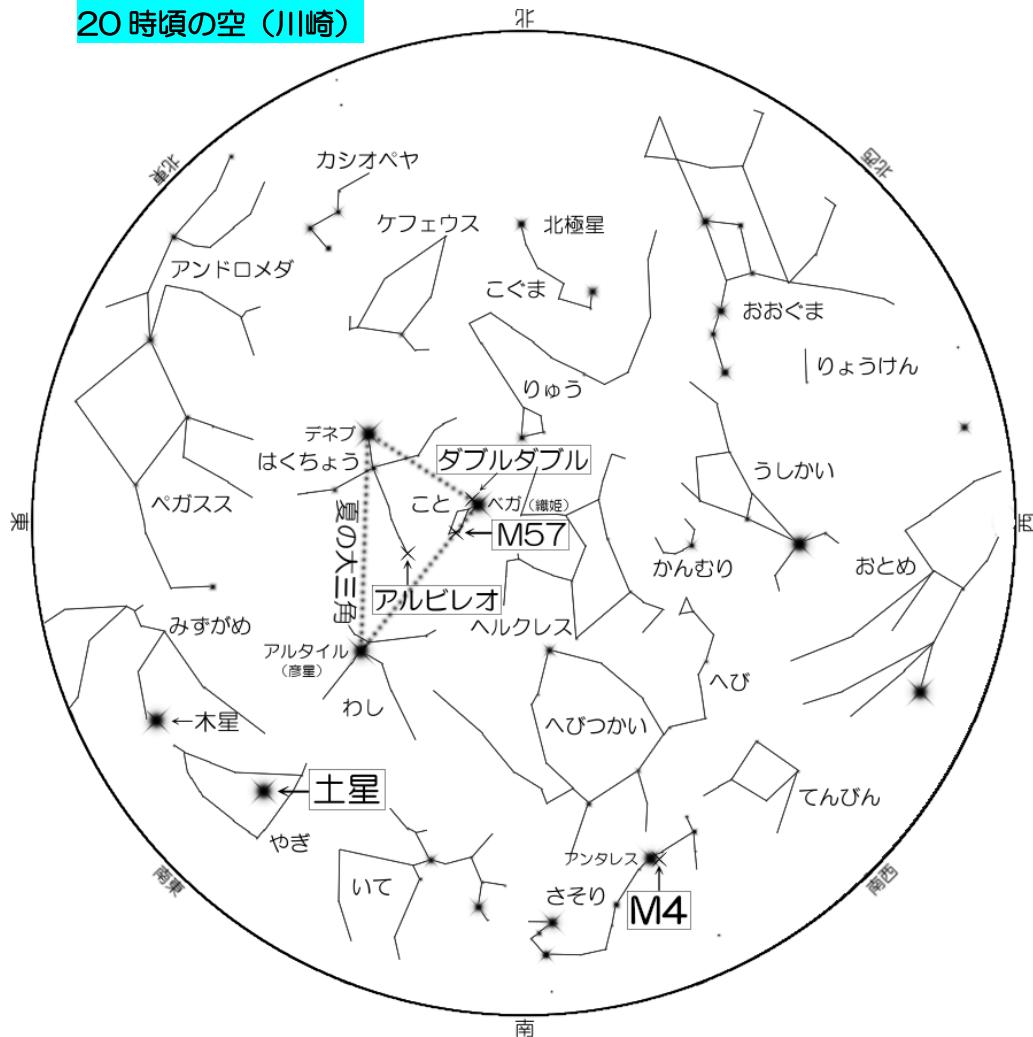


星を見る夕べ

*このリーフレットは科学館天文センターの協力により作成しています。

8月中旬

20時頃の空（川崎）



8月の星空

日の入り後、西の低い空には金星（-4等級）が輝き、東の空からは木星（-3等級）が昇ってきます。その少し高いところには土星（0等級）が見頃です。

また天頂付近には、こと座のベガ（織姫星）、南寄りにはわし座のアルタイル（彦星）、北寄りにははくちょう座のデネブが輝いています。この3個の一等星を結んだ三角形が夏の大三角です。

そして、今年は月明かりもなく好条件のペルセウス座流星群。8月13日の未明を中心に、たくさんの流星を観測することができそうです。

★これからの天体现象★

- 8月 2日 土星が衝
(太陽と正反対の位置になる・明るく見やすい)
- 8月 8日 新月（23時）
- 8月 11日 夕方西の空で月と金星が接近
- 8月 13日 未明にペルセウス座流星群が極大
(前後数日が多くの流星を見られるチャンス)
- 8月 14日 伝統的七夕（旧暦7月7日）
- 8月 16日 上弦（0時）
- 8月 20日 木星が衝（太陽と正反対の位置になる・明るく見やすい）
- 8月 22日 満月（21時）が木星と接近
- 8月 30日 下弦（16時）、くじら座ミラが極大光度



8月の観察天体(予定)

アルビレオ(二重星)

はくちょう座の頭の位置にある3等星のアルビレオ(はくちょう座β(ベータ)星)。肉眼では1つにしか見えないですが、天体望遠鏡をのぞくと……、寄り添うような雰囲気がほっこりする2つの星、二重星。「天上の宝石」とたたえられるオレンジの主星と青い伴星からなる美しい二重星で、宮沢賢治は『銀河鉄道の夜』でサファイアとトパーズの星になぞらえています。

M57(リング星雲)

太陽程度の重さの恒星が一生を終えた後の姿です。この重さの恒星は寿命を迎えると膨らんで赤くなったり後、外層のガスを宇宙空間に放出して、中心には核融合を終えた白色矮星(はくしょくわいせい)と呼ばれる星が残ります。この白色矮星が放つ紫外線が、リング状に放出されたガスを照らして輝いて見えます。

土星

太陽系で木星に次いで2番目に大きな惑星で、太陽から6番目の軌道を29.5年かけて一周しています。90%以上が水素でできているガス惑星です。観察会で人気がある環は、主に小さな氷でできていて、地球上で真横から見ると見えなくなってしまうほどの厚さ(数十m程度)です。次に見えなくなるのは2025年春です。



ぷりんのひとことメモ

夏休みの宿題はすすんでる?

自由研究に星のことを調べるのはどうかな?今月は、ペルセウス座流星群っていう有名な流星群があって、13日の前後には流れ星がたくさん見られるよ。

14日は「伝統的七夕」の日で、7月に見逃しちゃったっていう人はもう一回、おり姫やひこ星に会うチャンスがあるよ!あと、木星・土星がみつけやすいよ~。



※インフォメーション

「星を見るタベ」は、まん延防止等重点措置の期間延長、ならびに緊急事態宣言の発令に伴う本市行政運営方針に従って、以下の日程を中止といたします。

8月7日(土)、8月14日(土)、8月21日(土)
8月28日(土)

ご理解くださいますよう、お願いいたします。